



令和7年度 東京都立田無特別支援学校
学校経営計画（田無スクールプラン2025）報告

I 目指す学校

「地域型特別支援学校として、生徒の可能性を引き出し
豊かな社会生活に向けて、生きる力を育む学校」

※◎：目標 100%達成 ○：70～90%程度達成 △：40～60%程度達成 ×：30%以下達成
【結果は◎、○、△、×も記入】

プラン1 【学習指導の充実】 ◆学習指導

方 策	目 標	結 果
1 教室等学習環境（学びの場）を整備し、個に応じた教育環境（環境の構造化等）を充実させるとともに、生徒が主体的に学習環境を整備できる力を育成する。	環境整備計画を作成し、学期1回以上、環境整備の状況を把握し、改善する。	学期ごとに環境整備チェックを行った。◎ 保⑦(学習Q4)そう思う。 86% ○
2 外部専門員と連携して「自立活動」の研究・研修を進め、教員の専門性及び指導力の向上を目指す。研究の成果を2月の公開研究大会で全国の教育関係者に向けて発表する。	毎月の研究会で外部専門員と連携して研究を深める。2月に公開研究大会を実施。	外専からの指導 8回 ◎ 2月研究発表実施◎
3 全学年で、授業などにおいてヨガや呼吸法など心と体を整える取組みを推進する。(体育健康教育推進校)	各学年の保健体育で2回以上の授業実践。実践のまとめを2月に実施する 教員研修を年1回以上実施	授業実践2回◎ 教員研修2回◎
4 外部専門員を活用し、図書館、図書コーナーを充実させるとともに、読書活動・言語活動を充実する。	図書の貸し出し年間 150冊。11月校内ポップコンテストの実施。	ポップコンテストを実施した。◎2学期終業式で表彰を行った。 貸出件数 167
5 個別指導計画等を基本に PDCA(計画－実施－評価－改善)サイクルを確立する。	保護者アンケート肯定率 90%以上。	学校評価で個別指導計画に関する保護者の数値が改善した。 保⑦(学習Q3)そう思う。 94%◎
6 花等植物について学び、校内で生き生きした花や緑（草木等）を育て、明るい学校作りを推進する。	通年とおして、校内に花や緑（草木等）をディスプレイする。	計画通り外部専門員から助言を受け、四季に合わせて花壇の整理を行った。

		入学式等育てた花を添えた◎
7 外部専門員の助言を受け、Vineland-II・J☆sKep・TTAP・WISC-IV等の生徒のアセスメントを行い実践に生かす。	130 ケース以上アセスメント実施。	VinelandII 高1, 2年(不登校6名以外)実施 TTAP6名実施 J☆sKeps8名実施 合計139実施◎
8 授業担当教員が一回以上の公開研究授業を行い、生徒の学びの質を高める授業改善を推進する。 (「主体的・対話的で深い学び」「自立活動」「学習評価」等学習指導要領の内容を取り入れた授業の推進)(思考力・判断力・表現力を養う授業の推進)	1月までに授業担当教員が公開研究授業を1回以上行う。他の教員の研究授業を参観し、意見交換を行う。(年間一人1回以上)	・教員98%が研究授業実施○ ・参観アンケートの完成、自己評価表完成
9 初任者、2年次、3年次、中堅教諭等資質向上研修対象者は研究授業を実施し、授業改善を行い授業力の向上を目指す。	公開研究授業年3回。	公開研究授業各自3回実施◎
10 外部専門員等を活用し、主任教諭及び教諭等の授業力や指導力の向上を目指す。	外部専門員による主任教諭・教諭へのアドバイスを年間8回実施。	12回実施◎
11 情報教育、デジタル教育、教育DXに関する研修を実施し、教員の専門性を向上させる。また、各学年でプログラミングに関する授業を実施し、生徒のプログラミング思考を豊かにする。	春季及び夏季に情報教育の研修を合計2回以上実施する。プログラミング教育の授業を2、3年で実施する。	学部会、夏季、冬季休業中に計3回情報教育研修を実施。◎ プログラミング授業は情報の授業で実施。◎
12 一人一台端末を積極的に活用し、利活用の状況を集約する。	一人一台端末を活用した実績を集約する。(10月中旬、3月最終状況を確認)	2学期使用平均25.5回 2.3学期使用平均40.1回 ◎
13 「学校2020レガシー」に基づき、オリパラ・スポーツ(アスリート交流等)、環境教育、国際理解教育、外国語(英語等)、芸術教育、日本の伝統文化の教育を実施し、レガシーとなるよう進める。	各学年1回以上実施。アスリート交流など年間1回以上実施	3年生1回FC東京との交流実施◎

3 プラン2【生活指導(生徒指導等)、安全教育の充実】 ◆生活指導

方 策	目 標	結 果
1 いじめ根絶の指導体制を構築のために教職員研修を実施する。	全校研修を年2回実施。	研修2回実施◎
2 いじめ根絶のため、生徒一人一人が友達や他者を思いやる気持ちを育む教育を推進する。	ふれあいアンケート3回実施	アンケート3回実施◎
3 学校生活等で指導上対応が難しい生徒に対して、迅速に校内支援委員会を実施し、必要に応じて、外部専門委員を活用しながら課題解決を図る。	校内支援委員会を年9回開催する。また、外部支援員と連携した対応(研修会含む)を38回以上実施	校内支援委員会9回実施◎ スクールカウンセラー38日◎

		100%活用
4 生徒が集団を意識し、規律正しく行動及び活動できる教育を推進する。(集団行動に関する指導)	4・5月に体育等の授業で集団行動の指導を実施 体育祭等で、集団発表の実施	授業や行事で発表◎
5 防災教育推進委員会を活用して、地域と連携した防災等危機管理体制を構築する。	6月までにBCP等防災マニュアルを見直し7月全校に周知	全校周知済◎ マニュアル見直し、全校周知済◎
6 BCP(事業継続計画)など危機管理計画等緊急時マニュアルを更新し、西東京市等と連携した福祉避難所、帰宅困難者等の受け入れを想定した訓練を行う。	7月までにBCPの更新。 受け入れを想定した訓練の実施	BCP更新済◎ 受け入れ想定訓練内容の充実(地域連携訓練実施) ○
7 学校施設、教育環境、準備室等の点検・改善(老朽化対策、美化)を行う。	生活指導部で月に1回以上安全点検。学校施設や教室環境の課題の整理	毎月初め実施◎
8 人権教育研修会を実施(体罰の問題を行い、児童虐待問題を重点的に行う)する。	年間3回実施。	3回の研修実施◎
9 体罰、不適切な指導、不適切な言動及び性暴力等の服務事故「0」とする。	体罰、性暴力等の服務事故「0」。	2回の研修実施 服務事故「0」◎

4 プラン3【キャリア教育・職業教育の推進】 ◆進路指導・生活指導・学習指導

方 策	目 標	結 果
1 作業学習の授業改善を行う。 挨拶、返事、態度、マナー等規範意識の育成 (外部専門員等による作業学習のアドバイス)	保護者アンケート肯定率 95%	肯定率94%○
2 生徒の実態に応じた進路指導の充実のため、実習評価表を基にした、課題分析と目標を設定し、キャリア教育の推進を図る。	「田無マイ・キャリアデザイン」を2・3年生徒実施、 アセスメントの実施により生徒の強みと課題を明確化し進路実現を目指す	2年生○累計で実施◎
3 作業製品の販売や活動場所を地域等校外に広げ、地域理解・社会参加・地域貢献の機会を増やす。	社会貢献等できる連携施設等場所の確保。連携施設での販売を年8回以上	13回以上実施◎
4 福祉就労、企業就労等、生徒の能力や適性に応じた多様な進路先を確保する。	福祉就労・企業就労を希望する生徒の福祉就労率・企業就労率100%	福祉・企業就労率92.4% ○
5 企業と連携し、進路指導担当及び教員の専門性向上を推進するとともに、生徒、保護者への進路指導を充実する。	4月以降、関係機関と連携し、年4回の保護者学習会を実施	保護者学習会4回実施済◎
6 積極的に企業開拓し、進路先の選択肢を増やす。	企業開拓100社以上	90社○

7 生徒のニーズに応じた企業に就労する。 (企業就労率の向上を目指す。)	企業就労率 30%以上	企業就労率 26.9%○
---	-------------	--------------

プラン4【学校行事の充実と円滑な実施】 ◆特別活動

方 策	目 標	結 果
1 生徒が主体的・意欲的に学習できる学校行事を推進し、学力の向上を目指す。	各行事で意欲的に活動できる内容を計画する。	儀式的行事に関して適正に実施した。始業式等も準ずる形で実施した。生徒が学期の開始、終了等を意識する様子が見られた
2 体育祭や文化祭等、生徒や職員の安全を確保し、生徒が主体的に活動するなど組織的に運営し、推進する。	保護者アンケート、保護者等の肯定率 80%以上	保護者アンケート肯定率 90%◎
3 校外学習、宿泊行事等では、安全で充実するように配慮し計画するとともに、安全な集団活動の取組みを実施し、生徒の主体的な活動を推進する。	保護者アンケート、保護者等の肯定率 80%以上	保護者アンケート肯定率 90%◎

プラン5【部活動の充実】 ◆特別活動、その他

方 策	目 標	結 果
1 いじめ、体罰、不適切な指導、不適切な言動等のない「部活動」を推進するための計画書を作成する。	5月までに部活動の指導方針及び計画の作成	指導方針・計画作成済◎
2 挨拶を適切に行い、ルールやマナーを守ることができる「部活動」を推進する。(他の児童・生徒の模範となる行動)	5月までに部活動の指導方針及び計画の作成	指導方針・計画作成済◎
3 地域に向けて部活動の活躍を発信する機会を持つ。	学校だより等の通信に部活動の活躍を掲載する。	学校だよりに掲載済◎

7 プラン6【健康の保持・増進に向けた指導の充実】 ◆保健関係◆学習指導

方 策	目 標	結 果
1 新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症対策を徹底する。	1年間通して、基本的な感染症対策を徹底する。	感染症の大きな流行は予防できた◎
2 健康の保持・増進に向けた指導及び研修を充実する。	学校保健員会及び同委員会講演会を年間1回以上実施	委員会1回以上、講演会を1回実施◎
3 生徒の「歯科指導」「性に関する指導」「肥満指導」を推進する。	「性教育」の授業は、1月までに各学年で授業実践を計画的に行う。	全学年授業実施済◎
4 安全・安心な給食(食材の理解等)や食に関する指導を進めるとともに、食育の推進を図る。	1年間、食育に関する計画を円滑に進め、日々の給食では給食便り「田無ラン	給食だより「田無ランチ」(195)回作成した◎

	チ」を年間 190 回作成する。	
5 食物アレルギーの対応に関する研修を実施するとともに対応方法を理解する。	4 月当初に全教員向けの食物アレルギーの研修の実施	研修会実施済◎

8 プラン7【地域等連携と地域貢献、センター的機能の充実】◆学習指導、学校運営

方 策	目 標	結 果
1 特別支援教育コーディネーターの地域の高等学校等への積極的な派遣をとおして、発達障害のある児童・生徒への支援等、地域の特別支援教育を充実させる。	近隣の学校など年間 20 回の支援	高等学校への支援 26 回◎
2 作業製品の販売や活動場所を地域等校外に広げ、地域理解・社会参加・地域貢献の機会を増やす。	定期的に社会貢献等できる連携施設等場所の確保。 連携施設での販売を年 8 回	まちテナ西東京、べびくま、田無庁舎、地域活動支援センターブルーム、アスタ西東京での販売・清掃活動に取り組んだ。また、田無向台湯便局の花壇の手入れも定期的に行った。年間 8 回以上達成◎

9 プラン8【ライフ・ワーク・バランスの推進・働き方改革】◆学校経営・学校運営

方 策	目 標	結 果
1 時間外労働時間 1 か月 45 時間以内を目指す。(1 日の時間外業務を約 2 時間以内)。毎月 15 日頃、1 か月 45 時間を超えるペースで業務を進めている教職員に対して、業務の進行状況を聞き取り、学部・分掌内で業務の進行管理を実施する。	教職員の 90%以上が時間外労働時間 45H以内・月/年平均となることを目指す。	4 月 20 人、5 月 13 人 6 月 17 人、7 月 4 人 8 月 0 人、9 月 9 人 10 月 11 人、11 月 5 人 12 月 12 人、1 月 4 人 4 月から 1 月延 99 人 85%が達成○
2 毎月 1 回程度の定時退勤を徹底する。	全教職員の 80%が定時に近い時間に退庁する。	平均 71.6%が定時退勤から 1 時間以内に退勤○

10 プラン9【組織力の向上】◆学校経営・学校運営

方 策	目 標	結 果
1 勤務時間及び勤務時間以外においても、コンプライアンスを遵守し、行動する。	服務事故未然防止研修等や事故防止の取組み(定期券等の確認【年 2 回】等)を実施し、服務事故「0」を目指す	研修 2 回実施 通勤経路確認 2 回実施 服務事故「0」◎
2 学校ホームページを計画的な更新や情報伝達メールを活用し、教育活動、防災等の情報を発信する。	ホームページ年間 100 回以上更新。情報伝達メール年間 150 回以上	ホームページ掲載 101 回◎ 伝達メール (60) 回△

3 プール水等上水道の管理を徹底する。	毎日2回（朝及び夕刻）メーターの確実な確認	毎日2回メーター確認済◎
4 個人情報紛失事故を未然防止のため、職員室、保健室、経営企画室等の机上を整理するなど日々クリーンデスクを実行する。また個人情報の誤配布防止を徹底する。	クリーンデスクの徹底と個人情報の紛失及び、誤配布「0」	紛失事故0◎ クリーンデスク継続◎
5 主幹教諭連絡会での学校課題等の整理と改善策の検討を行う。	毎週開催。毎週の企画調整会議の円滑な運営のための準備	計画通り実施◎
6 教職員の性暴力、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどのハラスメントを根絶する。	年間3回以上の研修の実施 教職員の意識改革の推進	計画通り実施◎
7 教員及び経営企画室職員の電話対応、窓口対応では保護者等相手が安心感・信頼感をもつことができるように対応する。	年間をとおして苦情「0」。 保護者アンケート肯定率90%以上	電話対応苦情「0」 保護者アンケート90%以上達成◎

【当該年度の取組目標等に関する自己評価】

令和7年度は「個別最適な学び」と「協働的な学びの実現」を最重点目標として掲げ、生徒の自立と社会参加の実現を目指して取り組んできた。個別最適な学びについては、自立活動を中心とした公開研究大会を実施し、これまでの研究成果を全国に発信することができた。

協働的な学びの実現に向けては、地域の商業施設での販売活動や清掃活動、花壇整備など、昨年度は実施できなかった協働的な活動に取り組むことができた。さらに、東京グローバル人材育成指針に基づき、高等学校5校との交流を行うなど、地域との関わりも一層広げることができた。

【翌年度以降の課題とそれに対する改善策】

「個別最適な学び」について来年度は、今年度までに得た学びを教員同士で共有し、互いに切磋琢磨できる場として「個による発表会」を実施する。これにより、より実践的で身近に役立つ学びを促し、教員の力の底上げを図っていく。また、ICTの活用についてはさらに発展させ、一人一回研究授業ではICT機器を活用することを前提として研究授業の実施を行う。

「協働的な学びの実現」について来年度は、これらの取り組みを継続しつつ、新たな地域連携の機会を創出するとともに、活動を積極的に地域へ発信することに力を入れる。具体的には掲示板の作成や、学校通信の活用、西部学校経営支援センター支所でおこなっている「good news」への投稿を増やしていく。こうした取り組みを通して、学校評価アンケートにおける肯定的意見の向上を目指していく。